2023 年 6 月 22 日

学校法人三幸学園
広島医療秘書こども専門学校
校長　大原　隆　殿

学校関係者評価委員会
委員長　森下　圭

学校関係者評価委員会実施報告

2022 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1　学校関係者評価委員
① 前原　みゆき（医療法人ハートフル　アマノリハビリテーション病院　医事課課長）
② 常弘　嗣珠（2020 年度卒業生）
③ 森下　圭（学校法人三幸学園　飛鳥未来高等学校　広島キャンパス　教頭）

2　学校関係者評価委員会の開催状況
2023 年 6 月 22 日（会場　広島医療秘書こども専門学校　303 教室）

3　学校関係者委員会報告
以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2022 年度　学校法人　三幸学園　広島医療秘書こども専門学校
自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者　：　副校長　櫻井宏次
学校関係者評価報告責任者　：　学校関係者評価委員会委員長　森下圭

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、医療分野の学校として「医療現場で医療事務・診療情報管理を通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、医療分野として「相手のこうしてほしいを理解し、考え続ける人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

■前年度重点施策振り返り

2022 年度目指すものとして、

『チーム力』の最大化…教員一丸となり、

・防ぐことができる退学者、休学者の防止

・授業満足度、資格取得率の向上

・卒業生アンケートでの学校満足度の向上

<結果>

・退学率　　5.1%（対前年比　+0.6%）

・精皆勤率　61.2%（対前年比　+11.2%）

昨年と比べ退学率増加、精皆勤率は改善した。退学の要因としては人間関係が起因による目標喪失が増えている。また、精皆勤率については1年生が昨年度に比べ大きくプラスとなっている。考えられる要因としては昨年度の反省を踏まえ、出席についてのアプローチを年度当初から継続して指導をしていたことが功を奏したのではないか。退学については、退学を考え出してから申し出るまでの期間が早く、一度本人が退学を決めたら説得することが難しい事例が多かった。より担任からのアプローチだけではなく、教科担当との連携も必要で、変化が起きそうな前段階での取り組みや、変化が起きた時にすぐ対策できるように行動していく必要がある。

<結果>

（学校生活アンケート）

・担任の先生方に公平に扱われていると感じている	3.58	（全国比　-0.05）
・担任の先生方の熱意や愛情を感じている	3.68	（全国比　-0.01）
・担任の先生方から将来目指す業界についての情報を聞いたり得たりする機会がある	3.62	（全国比　+0.07）
・連絡事項や情報を適切なタイミングで得ることが出来ている	3.51	（全国比　+0.10）
・担任の先生方に質問や相談がしやすい環境にある	3.61	（全国比　+0.04）
・本校に入学して良かったか	3.30	（全国比　+0.16）

（卒業時アンケート）

在学中を通してどのように感じられたか。

・教職員の熱意・愛情	十分だった、どちらかと言えば十分だった	86.4%（全国比-7.8%）
・業界とのつながりを感じられる機会	十分だった、どちらかと言えば十分だった	84.1%（全国比-5.7%）
・資格の満足度	高かった、どちらかと言えば高かった	95.5%（全国比+4.5%）
・本校で成長することができるか	出来た、どちらかと言えば出来た	93.2%（全国比-3.4%）

学校生活アンケートは全国と比べてほぼ変わらない結果となっているが、卒業時アンケートについては資格取得の満足度以外はマイナスとなっている。教職員からの熱意や業界とのつながり、成長できると感じる機会など課題も多く見つかったので、これからの教務に活かしていきたい。

② 学校関係者評価委員会コメント

（前原委員）

今年の初めに 3 名の退職者が出た。通常であれば 3 か月の引継ぎ期間を設けているが、1か月後の退職の申し出もあった。少ない人数で運営すると一人に係る業務量が増えてくる。人間関係の要因がゼロではない。コロナ禍が原因になっているか不明。あまり表面には出ておらず明確ではない。

（森下委員）

前原委員と同じくコロナ禍が原因か不明だが、高校では気力が湧かない生徒もいる。コロナの原因も多少はあると思う。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

学校の理念・目的・育成人物像は専門分野の特性もふまえ明確に定められており、情報公開もなされている。
将来構造について、コロナ禍における実習未実施などもあり、業界のニーズを把握しきれていないところがある。

② 今後の改善方策

医療現場が求めている人物、能力について不変のものと今後の社会情勢の変化で可変するものをしっかり見極めていく必要がある。そのため、現場に足を運び現場の意見を取り入れるよう訪問や業界との連携に力を入れる。そして今後のカリキュラムの改訂に活かしていく。

③ 特記事項

特になし。

④ 学校関係者評価委員会コメント

（常弘委員）

コロナが 5 類になったが、マスク着用や消毒の対応は変化していない。

（前原委員）

発熱患者の受診が凄く減った。自己負担の変更も関係あると思うが、確実に数は減っている。
院内では、マスクを必須している。頻度は減ったが消毒も実施している。国より医療機関内ではマスクを推奨されているため、今後も対応は継続していく。患者様の転院時の検査も必須ではない。
入院患者の面会時間が 4 月時点では 15 分のみであったが、6 月以降は 30 分間に変更となった。濃厚接触者という定義がなくなったため、職員の出勤制限もない。現場としては、かなり助かる。

（常弘委員）

院内では、コロナに対してかなり厳しく対応をしている。3 月までマスクを 2 重にしていた。最近は緩和されているが、院長の方針もあると思う。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務･財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

一昨年より新たに取り入れだされた情報システムにもやっと慣れてきたが、全員が使いこなせるところまではいっていない。

② 今後の改善方策

試行錯誤しながら使えるようになってきていることと、使い方によっては業務効率化に大きく影響をあたえているため、今後も継続して使用していく。

③ 特記事項

特になし。

④ 学校関係者評価委員会コメント

（前原委員）

コロナ禍では、研修がオンラインであった。職員は直接、足を運び研修を聞きたいと言っているが、今後もオンラインでの研修が標準化されると思う。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成･実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育･実践的な職業教育の視点に立ったカリュキュラムや教育方法の工夫･開発などが実施されているか	4
関連分野の企業･関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成･見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技･実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施･評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価･単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	3
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務･兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識･技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

① 課題

引き続き業界等との連携において優れた教員の確保は課題である。コロナ禍3年目で、様々なことにも慣れてきており抵抗なく授業提供はできているが、人材育成目標に向けた授業となると人材不足が否めない。

② 今後の改善方策

積極的に卒業生採用や現場経験者を採用するよう取り組みはしている。関連分野における業界等との連携を今までのやり方だけではなく、新たな連携の仕方を模索していく必要がある。コロナ禍の規制が緩和された中、従来実施できていた業界との繋がりを再度模索していきたい。

③ 特記事項

特になし。

④ 学校関係者評価委員会コメント

（常弘委員）

保険証がマイナンバーに移行したことで、高齢者に対しての対応が難しい。顔認証や暗証番号の入力がある。しかし、暗証番号を忘れている方もいるため、対応が難しい。マイナンバーの対応をすることで、会計が遅れることもあり、患者様からクレームを頂くこともある。

（前原委員）

マイナンバーのメリットは限度額認定証などの提示の必要がなくなった。しかし、公費などの情報は無いため注意が必要。中にはマイナンバーの機械を通り、受付をしたと思っている患者もいる。現状、マイナンバーを使用している人は少ない。

（常弘委員）

本日、受診した患者様で36人中2人がマイナンバーを使用した。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格（免許）取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

就職率、資格就職率は昨年度と同様満足いく結果が得られているが、退学率については特に課題が残る。

② 今後の改善方策

退学率の低減については、学生の変化に気づけるよう、引き続き保護者・教職員間の連携を大事にしていく。コロナ禍の影響か、人間関係が起因している事例が多く、従来の考え方とは学校側も意識を変えていかないといけない。

③ 特記事項

特になし。

④ 学校関係者評価委員会コメント

（森下委員）

高校も定員割れをしており、大学も定員割れをしている。高校で進学先の説明を実施したいが、進路指導も含め難しい部分がある。

(5)学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路･就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	3
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校･高等専修学校等との連携によるキャリア教育･職業教育の取組が行われているか	3

① 課題

保護者との連携については、入学前の保護者説明会･年度当初の挨拶電話･定期的な郵送物など必要であろうことは行っているが、連携が取れている家庭もある反面、ご協力いただくのが難しいご家庭もある。

卒業生への支援体制については卒業生支援サイトなどもあり、案内はしているが実際活用している学生は少ないであろうと考えている。

② 今後の改善方策

保護者との連携については、支援が必要な学生にとっては必要不可欠なことから、今実施している以外の対応などがあればぜひ取り入れていきたい。在校生にむけて分野として全国の求人が一括で見ることのできるシステム（きゃりーなび）ができたことで就職活動のフォローになっているが活かしきれてはいないため、もっと活用を促す。

③ 特記事項

特になし。

④ 学校関係者評価委員会コメント

（森下委員）

連携はこのまま専門学校と取っていきたい。現在は、ネット社会になっており、授業もタブレットを使用している。人と関わる機会が減る時代になっている。全日制の高校は定員割れをしている中、通信制を選択する人は多く増えている。通信制の生徒は自分で自由に時間を使いたい生徒もいる。通信制高校のニーズが高まっている。将来、個人的な部分を含め働き方も変わってくるのかもしれない。

退職代行を使用するなど、危機感を感じる部分がある。病院側もそういった人達が増えてきた際に、指導できるシステムがあれば変化すると思う。

（前原委員）

通信制高校は自分で時間や時間割をコントロールすると思う。人と接する機会も減少するがコミュニケーション能力はどうか。

（森下委員）

コミュニケーション能力が高いと言えない。SNSやチャットでコミュニケーションを取っている高校生もいる。これからコミュニケーションが苦手な人が増える中、時代や働き方がどんな風に変わっていくのか。対応を検討していく必要があると思う。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設･設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災･安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

前期はコロナ禍における影響もあり実習はできず、後期に実施ができた。ただし、学外実習施設の確保は困難を極め、何とか行かせることができた。次年度以降も学外実習施設の確保が課題である。

② 今後の改善方策

コロナが5類に下がったことで条件がかなり緩和されているが、実習が医療現場で実施というと事もあり引き続き確保は難しいと考えられる。早めに確保に動きなんとか外部実習施設の確保に努めたい。

③ 特記事項

特になし。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし。

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

特になし。

② 今後の改善方策

募集活動については、昨年度に引き続きオンライン・対面と組み合わせて活用した。高校のガイダンス等も増えてきたおかげで動員状況は問題ないが、同じく他校や大学なども同様の状況であるため、今後は競合校に対しての施策が必要になると考える。

③ 特記事項

特になし。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし。

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算･収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算･収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】今期は第2次中期計画(2018 年度～2022 年度)の達成状況等の公開と同時に、第3次中期計画(2023 年度～2027 年度)を公開する予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし.

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

適切に法令を遵守した運営を行っている。

② 今後の改善方策

引き続き教職員へのコンプライアンスに対する啓蒙を行う。

③ 特記事項

特になし。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし。

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

現状は地域に対する公開講座・教育訓練は行っていない。またボランティア活動については、実施を検討しているものはあるが、まだ実施できてはいない。

② 今後の改善方策

昨年度、日本赤十字社の取り組みに賛同し、プロジェクトに参加したが、今後も機会があれば参加したい。

③ 特記事項

特になし。

⑤ 学校関係者評価委員会コメント

特になし。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

2022 年度も引き続きコロナ禍であったが、学校運営において試行錯誤していた昨年度とは違い、様々なことに対応できていたかと思う。ただし、現場実習のための外部施設の確保などは引き続き大きな課題が残る。また、コロナ禍を過ごした学生が入学してきたことで、今までの教務のやり方では難しいと感じることもあったため、次年度以降も社会の変化とともに自分たちの教育の形も模索していく必要がある。
2023 年度は特に業界との繋がりを強化していき、医療現場の困難や必要としているものを把握・分析し、適切な教育ができるような関係構築をしていきたい。